

JICA 横浜 海外移住資料館

館報

2023 年度



はじめに

JICA 横浜 海外移住資料館は 2002 年に開館し、2023 年 9 月には来館者数が 70 万人を超えました。コロナ禍の影響をようやく脱し、多くの方にご来館いただけるようになったこと、大変有難く感じております。当館に関心を持ち、足を運んでいただいた皆様、ご協力くださる関係者の皆様、そして当館の活動を支えてくださる地域の皆様に、厚く御礼申し上げます。

2023 年度は、2013 年から 2022 年までの当館のあゆみをまとめた「開館 20 周年記念誌」を刊行致しました。この間に行われた企画展示やイベント、また 2022 年に完了した資料館のリニューアル等の変遷をまとめたものです。この記念誌の刊行を通して、当館の活動を振り返るとともに、海外移住の歴史や経験を今日的課題に照らして問い直し続けることの大事さを再認識致しました。

JICA 横浜の施設改修工事の影響による休館もあり、2023 年度の企画展示は「紀州魂ここにあり！ 世界で活躍する和歌山移民」のみの開催でしたが、8,793 名の方にご覧いただきました。第 2 回和歌山県人会世界大会に合わせて開催したこの展示は、和歌山の土地柄、県民性、また移民先各国での和歌山移民の特徴を紹介し、国内のみならず、世界の和歌山県人会の皆様にもご来館いただきました。

イベント関連では、オンラインでのセミナーの他、対面でのイベントも数多く行いました。リニューアルした展示の解説セミナーや JICA 海外移住「論文」優秀賞受賞者による講演会等、当館や海外移住の歴史に関心をお持ちの方向けのイベントの他、幅広い関心層に向けてアプローチすべく、海外移住の日・国際日系デーに合わせたイベント、外国人との共生社会の実現に向けて企画された出入国在留管理庁主催の「オール・トゥギャザー・フェスティバル」にも参加致しました。また、今まで展示やイベントであまり触れることのなかったフィリピンの日系人についてのセミナーも行い、アジアの海外移住や日系社会についても知っていただく機会を設けました。

学校を中心とした団体の皆様にも多くご来館いただき、教育プログラムには計 191 団体、5,073 名にご参加いただきました。修学旅行や校外学習で近隣の学校からもご来館いただき、子ども向けパンフレットを片手に真剣に見学する姿や、質問をする姿が資料館内で見られました。海外移住の歴史を通して、子どもたちの身近にある多文化共生社会や人権について考えるきっかけとなるようなプログラムをこれからも提供して参ります。

また、ブラジル、ペルー、アメリカを訪問し、日系団体や関係者との面談を行い、各地の移民史料館や日系資料館とは、現状調査と協議を通じた今後の巡回展の企画検討など、資料館のネットワーク強化を図りました。

企画展示やイベント、教育プログラムの他、研究・学芸部門にも力を入れ取り組みました。4 件の学術研究プロジェクトが集大成を迎え、それぞれに研究成果が発信され、研究紀要第 18 号や第 4 回 JICA 海外移住「論文」及び「エッセイ・評論」では、歴史的資料に関するものや国内の日系人・日系コミュニティを取り上げたものもあり、当館の展示だけではお伝えしきれないテーマについて、研究の成果を発表することができ、研究・関心の更なる広がりを感じております。

これからますます多様化する社会において、海外移住の歴史を現代の社会と照らし合わせ、さまざまな気づきを与える資料館となるよう、各活動のより一層の充実に努める所存です。引き続き当館の活動へのご支援・ご協力賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

JICA 横浜 海外移住資料館 館長 大野 裕枝

目 次

1. 展示・教育・広報

- (1) 展示イベント等1
- (2) 教育普及活動9
- (3) 広報活動 19
- (4) アンケート調査 21

2. 資料収集・整備

- (1) 資料等情報整備 22
- (2) 情報システム 24

3. 研究活動

- (1) 学術研究プロジェクト 25
- (2) 研究紀要の発行 26
- (3) JICA 海外移住「論文」及び「エッセイ・評論」
募集事業 27

4. 運営委員会・学術委員会

- (1) 運営委員会 28
- (2) 学術委員会 28

5. 各種実績等

- (1) 来館者受け入れ 29
- (2) 他館・他機関への訪問 30
- (3) その他 30
- (4) 他館への資料貸出 31
- (5) 各種実績データ 32

1. 展示・教育・広報

(1) 展示イベント等

1) 常設展示場の休館、閲覧室の閉室について

JICA 横浜センターの大規模改修工事のため、常設展示場は 2023 年 4 月 1 日から 5 月 23 日までの期間は平日のみ休館、また 11 月 13 日から 2 月 29 日までの期間は休館となった。閲覧室に関しては 11 月 13 日より閉室し、2024 年 8 月より開室の予定である。

2) 展示、イベント一覧

企画展示 1 「紀州魂ここにあり！ 世界で活躍する和歌山移民」

開催期間：9 月 2 日（土）～11 月 12 日（日）

開催期間中入館者数：8,793 名

概要：2023 年 10 月に和歌山県で開催された「第 2 回和歌山県人会世界大会」に合わせ、和歌山移民に焦点を当てたミニ展示を開催した。和歌山観光 PR シンボルキャラクター“わかぱん”をナビゲーターとして、なぜ和歌山県が全国で 6 番目に移民が多いのか、それぞれの移住先で信念と情熱を持って生きた人々の足跡を紹介した。



イベント1 オンラインセミナー「日系人の変遷と Nikkei の意味 - 日系コミュニティと日系社会の違い - 」

開催日：6月3日（土）10:30-12:00

参加者：126名※Zoom ウェビナーでの開催

概要：リニューアルにより新たに設置されたコーナー「日系人・日系社会の変遷をたどる」「日系人・日系社会の現在」を担当した学芸担当の小嶋茂による当該コーナーの展示趣旨を解説する二回の連続セミナー。第一回目として、日系人の定義の変遷や漢字ではなくカタカナやアルファベットで“ニッケイ”“Nikkei”と表記される意味などを解説した。
本セミナーは Zoom ウェビナーを利用して開催し、201名の登録、当日は126名の参加があった。

イベント2 オンラインセミナー「移民」と「移住者」の歴史 - 偏見や差別を超えるために - 」

開催日：6月10日（土）10:30-12:00

参加者：107名※Zoom ミーティングでの開催

概要：上記「イベント1」に引き続き、当館学芸担当の小嶋茂による「日系人・日系社会の変遷をたどる」「日系人・日系社会の現在」の展示趣旨を解説するオンラインセミナーの第二回目を実施した。本セミナーでは、「移民」と「移住者」という表現の違いによる意味の違いなどを解説した。
本セミナーは Zoom ウェビナーを利用して開催し、217名の登録、当日は107名の参加があった。
両イベントを通じて、「日系人、日系社会、Nikkei などの定義がよく理解できた」「移民や移住者をはじめ、さまざまな呼称について膨大な資料を使用して報告されたことが良かった」などの声が寄せられた。



イベント3 海外移住の日・国際日系デー周知イベント

開催日：パネル展示 6月1日（木）～6月30日（金）、ノベルティ配布 6月18日（日）、20日（火）
オリジナルクリアファイル配布数：

- ・海外移住の日 154枚
- ・国際日系デー 105枚

概要：海外移住の日（6月18日）および国際日系デー（6月20日）を周知するため6月1日からの1カ月間、JICA横浜センター2階回廊に海外移住の日および国際日系デーに関するパネルを展示した。

また、海外移住の日、国際日系デー当日には来館者にノベルティ（オリジナルクリアファイル）を配布するイベントを実施し、海外移住の日には154枚、国際日系デーには105枚のクリアファイルを配布した。

イベント4 （公財）海外日系人協会国際日系デーイベント「クイズ！ Nikkei Around the World」 オンラインライブ配信

開催日：6月18日（金）10:00-10:45

参加者：122名※Zoomウェビナーでの開催

概要：公益財団法人海外日系人協会が主催する国際日系デーイベント「クイズ！ Nikkei Around the WORLD」において、事前に当館展示物に関するクイズを出題し、イベント当日には当館展示場からオンラインによるライブ配信を行い、出題の回答の発表と解説を行った。



イベント5 令和5年度地域博物館連携事業「ミュージアム・ミッション2023」

開催日：7月21日（金）～8月31日（木）

参加者：247名

概要：神奈川県立歴史博物館が中心となり、横浜市中区、西区にある各博物館施設を回り、各館のミッションに挑戦し、ミッションをクリアすると各館でシールを配布。規定の枚数を集めるとプレゼントをもらうことができるイベントに参加した。本イベントは2023年度で21回目の実施となる。

当館からはリニューアルで新たに展示された「わたしは何を持っていったでしょう」に展示されている展示資料から出題した。期間中、当館が配布したシールの枚数は247枚であった。

イベント6 夏休み子ども向けイベント「宝探し“JOMM QUEST”」

開催日：8月1日（火）～8月31日（木）

参加者：840名

概要：当館独自の夏休み子ども向けイベントとして宝探しシートを配布し、全ての宝物（資料）を見つけることができた参加者にはノベルティをプレゼントした。子ども向けのイベントとして実施したが、親子連れで来館した父母にも好評を得、後日、大人だけで来館したグループも見られた。

本イベントはMM21アート&ミュージアム夏マップに掲載したほか、横浜市内の観光案内所でのチラシの配架、デジタルサイネージへの投影などの広報も行った。

イベント7 累計入館者数70万人達成記念式典

開催日：9月14日（木）、9月15日（金）～10月1日（日）

ノベルティ配布枚数：1,000個

概要：9月14日（木）の法政大学社会学部中筋ゼミ入館時に累計入館者数70万人を達成したため、くす玉割や感謝状授与、記念品贈呈などの記念式典を行った。翌日から約2週間、累計入館者数70万人達成を記念して来館者にノベルティの配布を行った。



イベント8 オンラインセミナー「中南米ニッケイ・コミュニティの教育には魅力がいっぱい - ブラジル日系日本語学校を事例して -」

開催日：11月10日（金）

参加者：281名※Zoom ウェビナーでの開催

概要：早稲田大学大学院日本語研究科の福島青史教授および東京都立大学大学院人文科学研究科の松田真希子教授を迎え、中南米の日系日本語学校の歴史や現状と課題、日系日本語学校が持つ可能性についてそれぞれ講演した後、公益財団法人海外日系人協会事務局次長の水上貴雄氏がモデレーターとなり三者による対談を行った。

参加者アンケートでは「活力を失いつつある日本のコミュニティにとって、日系人社会から学ぶことがたくさんあるように感じた」「中南米の日系社会の日本語教育と地域日本語教室の共通性について考えた」などの声が聞かれた。

本セミナーには日本国内のみならず、中南米の日本語教育関係者の参加も見られ、参加登録者数407名、当日視聴者数281名という結果となった。



イベント9 第三回 JICA 海外移住「論文」優秀賞受賞者講演会「ブラジル移民促進のために使われた幻燈スライドと野田良治」

開催日：12月10日（日）10:30～12:00

参加者：60名※Zoom ミーティングでの開催

概要：第三回 JICA 海外移住「論文」部門優秀賞を受賞した近畿大学工業高等専門学校の田中和幸教授による講演会を実施した。講演内容は受賞論文で論じられている幻燈スライドと野田良治に関する内容に加え、同氏の専門である建築分野の内容（ブラジル・サンパウロ州レジストロ市に残る日本人移民の住宅に関する調査について）も含まれており、論文の大変充実した内容となった。

同月より第五回 JICA 海外移住「論文」および「エッセイ・評論」募集が開始されたため、当該募集の告知をあわせて行った。

イベント１０ 出入国在留管理庁主催イベント「オール・トゥギャザー・フェスティバル」参加

開催日：１月２１日（日）１０：００～１６：００

参加者：２０１名

概要：外国人との共生社会の実現に向けて毎年１月が「ライフ・イン・ハーモニー推進月間」と定められたことを背景に２０２４年１月２４日（日）に第一回オール・トゥギャザー・フェスティバルが出入国在留管理庁主催で実施されることとなった。同庁より出展の依頼があり、当館としてブース出展を行った。ブースには新たに制作したパネルや海外移住資料館だより（リニューアル号）を配架、貸出教材（移民カルタ２種）を展示したほか、常設展示場体験学習コーナーで体験できる移民クイズ等に挑戦できるようブース内にパソコンを設置した。また、ブース来場者にはオリジナルクリアファイルを配布するなどして館のPRに努めた。当日は雨天とあいにくの天候ではあったが、ブース来場者は２０１名あった。



イベント１１ セミナー（対面・オンライン）「フィリピンの日系人とは？」

開催日：３月２２日（金）１５：００～１６：３０

参加者：９８名※オンライン６４名、対面３４名

概要：本セミナーでは、ミンダナオ国際大学学長・フィリピン日系人連合会会長であるイネス・山之内・Ｐ・マリヤリ氏を迎え、フィリピンの日系人をテーマとしたセミナーを対面およびオンラインによる、いわゆるハイブリッドで実施した。当館では中南米や北米をテーマとしたセミナーや企画展示などのイベントが多い中でアジアの日系社会を取り上げて実施できたことは、「今回のセミナーで初めて知ることが多かった」との声が多かったことから大変有意義であった。



全国各地の日系人会の活動

＜活動内容＞

1. 主にフィリピン残留日系人の身元判明調査の実施および協力、情報共有など。
2. 日本語学校・日本語研修センターの開設・運営
3. 日本人移民文化遺産保護
4. 診療所・障がい児向け訓練センターの運営
5. 野球大会開催 など



イベント12 JICA 緒方研究所・JICA 横浜 海外移住資料館 共催
2023 年度 移住史・多文化理解講座「社会のつながりの力」(全7回)

開催日および参加者：

- [第1回] 1月25日(木) 18:30～20:00 / 141名
テーマ：「海外日系人と日本社会の歴史的つながり」
講師：長尾直洋氏(名桜大学 国際学部 准教授)
「送り出し社会と移住先をつなぐ「陰の功労者」～石川県海外移住家族会の役割」
小原学氏(JICA 中南米部 部長)
「戦後の海外移住実施機関と役割の変遷にみる移住・日系人事業」
- [第2回] 1月30日(火) 18:30～20:00 / 117名
テーマ：「アルゼンチンの日系人、日本ではどこで何をしているのだろうか？」
講師：松本アルベルト氏(JICA 日系社会研修及び日系社会海外協力隊課題別派遣前訓練 講師、合資会社アイデア・ネットワーク 代表取締役)
- [第3回] 2月8日(木) 18:30～20:00 / 118名
テーマ：「ブラジル人「帰国者」の労働市場への編入と越境的な移住過程」
講師：ウラノ エジソン ヨシアキ氏(筑波大学 人文社会系 准教授)
- [第4回] 2月14日(水) 18:30～20:00 / 99名
テーマ：「在日朝鮮人集落・京都府宇治市ウトロ地区を守る運動で紡がれた人と人との関わり」
講師：田川明子氏(ウトロ平和祈念館 館長)
孫片田晶氏(立命館大学 産業社会学部 准教授)
- [第5回] 2月27日(火) 18:30～20:00 / 73名
テーマ：「華僑から華人へ」
講師：陳來幸氏(兵庫県立大学 名誉教授、ノートルダム清心女子大学 教授、神戸華僑歴史博物館 元副館長)
- [第6回] 3月6日(水) 18:30～20:00 / 143名
テーマ：「「ハーフ」「ミックス」の社会史～「日本人」と「外国人」の二分法を問う～」
講師：下地ローレンス吉孝氏(立命館大学 衣笠総合研究機構 研究員)
- [第7回] 3月25日(月) 16:30～18:00 / 128名
テーマ：「難民支援に向けた国際社会の連帯と JICA の協力～JICA のアフリカにおける難民受け入れ地域支援の事例から～」
講師：花谷厚氏(JICA 緒方研究所 主任研究員)

概要：日本で増えつつある海外からの多様な移住者の背景について理解を深めるため、本講座では、国境を越える人々がどのような思いで移動し、どのような生活を送ってきたのか、その歴史や社会背景の理解を通じて、多文化共生をともに考えることを目指した。全7回の講座を通じて、「つながり」をキーワードに多様なルーツを持つ人々がさまざまな社会のつながりを築いてきた例をみていきながら、社会のつながりや連帯がもたらす可能性について、参加者とともに考える機会となった。

公開講座 1

「海を渡った和歌山人との思い出～心に残る松原のおじさん～」

開催日：9月23日（土）10:30-12:00

講師：富家 力氏

（和歌山県中南米交流協会 副代表）

受講者数：73名（オンライン・事前申し込み114名）

概要：富家力さんが「戦後ブラジル移民の父」と呼ばれる松原安太郎氏との思い出や松原植民地の様子を、数々の写真や動画とともに解説いただいた。また松原移民としてブラジルへ渡った兄、富家修さんや、世界一のリンゴ王としてブラジルで活躍する同級生の平上文雄さんがブラジルから参加し、移住した当時の心境や次の世代へ伝えたいことなどを、富家力さんとともにお話いただいた。



(2) 教育普及活動

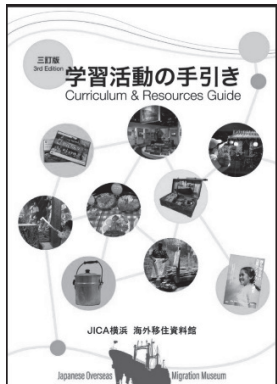
1) 教育プログラムの概要

当館では、日本人移民に関する資料の収集、保存、展示、研究活動のほか、設立趣旨にあるように移住者たちの足跡や役割について多くの人々に伝え、理解を深めてもらう役割を担っている。また、特に若い世代の人々に、多文化共生社会を生きる一員として、あるいは開発教育の視点からも、一人ひとりに移住者からのメッセージを受け止めてもらいたいとの思いから、開館当初より、教育普及活動に積極的に取り組んでいる。

現在、日本においても外国から多くの人々が移り住み、多文化社会が進展してきており「多文化共生」が教育の分野においても大きな課題になっている。そこで、日本人の海外移住の歴史と日系人の生活について展示を行っている当資料館では、そのような課題に応え、教育関係者を対象として、指導者向けの解説書である「学習活動の手引き」の作成をはじめとし、教材開発やボランティアによる展示ガイド等、多様な教育プログラムを実施している。

今後、世界の移民人口はますます増加すると予想されている。未来に向けて、考え、解決すべき問題も多く存在している。私たちは、そうした問題に正面から向き合いながら、これからも、多様な人々が共生できる社会を育み続けていかねばならない。当資料館の教育プログラムを「共生にむけて」社会参加ができる子どもたちの育成のために活用いただければと考えている。

表：海外移住資料館の学習教材

【学習活動の手引き】WEB公開 海外移住資料館の見学を伴う学習活動や資料館教材を用いた学習活動を掲載した『学習活動の手引き』の三訂版を刊行した。三訂版では、海外移住資料館の展示リニューアルに合わせて活動案を改訂し、海外移住の歴史だけでなく、多文化共生についても学べるよう、現代の教育ニーズに合わせて作成している。活動を実践しやすいようにワークシートや参考資料をHPからダウンロードできるように作成した。学校での授業や、NGO/NPO関係の方々のワークショップの際の参考として利用できる。	
【移民カルタ】貸出可 日本人の海外移住の歴史、移住者の生活や心情、日本に住む日系人の生活や思いなど、子どもたちに知って欲しい移民に関するさまざまな事柄を、遊びを通して楽しみながら学ぶことができる。	
【日本-ブラジル移民カルタ】貸出可 このカルタは、単に日系ブラジル人の歴史や文化を学ぶだけではなく、日系ブラジル人の継承日本語教育の学習教材としても活用できるよう、日本語とポルトガル語の解説が併記されるなど、さまざまな工夫が凝らされている。 (制作：移民カルタ研究会)	
【移民スゴロク】貸出可 このスゴロクは、日本人のブラジル移住および移住一般に関して学ぶことを目的としている。クイズとしても遊べるようになっている。小学生高学年以上対象。	

【紙芝居】貸出可

絵や写真、そしてわかりやすい言葉で書かれた物語を通じ、移住者の歴史的経験や心情、日本に暮らす日系人の生活や思いを共感的に理解することができる。全 4 種類。

- (上段左) 海を渡った日本人
- (上段右) カリナのブラジルとニッポン
- (下段左) ハワイに渡った日系移民
- (下段右) 弁当からミックスプレートへ



【いみんトランク】貸出可

いみんトランクは、国際的な人の移動から多文化共生を学ぶことのできる教材として、また、日本と世界をつなげていく教材として、移民に関する授業や事前学習のサポートを目的に貸し出ししている。移住者の歴史や経験、貢献などにかかわるハンズオン教材として、以下の教材を用意している。なお、2022年度は12点の新規学習教材が追加された。

- ・野菜山車（画像・トピックシート有）
- ・ハワイ移民労働着
- ・弁当缶
- ・笠戸丸画像
- ・パールハーバー当日の新聞
- ・太平洋戦争終戦を伝える新聞
- ・さとうきび
- ・ミックスプレート（トピックシート有）
- ・移住幹旋ポスター
- ・ジュート
- ・コショウ
- ・綿花
- ・コーヒー
- ・コーヒー用麻袋
- ・日系人が栽培している野菜
- ・サクラ醤油
- ・ハワイ盆踊り手ぬぐい
- ・ロコモコ（トピックシート有）
- ・スパムセット
- ・Tシャツ（日系コミュニティのイベント等で使用されたもの）
- ・ブラジルの和菓子（やぶれまんじゅう、あんぱん、詰め合わせ、緑茶もち、金澤製菓画像。トピックシート有）
- ・ブラジル南米神宮のお守り（南米神宮画像、トピックシート有）
- ・ハワイのビッグファミリー（画像）



【ハワイ移民労働着：ハナハナウェア】



【ミックスプレート、弁当缶、さとうきび】



【パールハーバー当日の新聞】

- ・ブラジルの米
- ・ブラジルの干柿
- ・野菜山車の唐辛子(模型)(新規)
- ・野菜山車のさつまいも(模型)(新規)
- ・野菜山車の大根(模型)(新規)
- ・萬屋のフランスパン(模型)(新規)
- ・野菜山車の白菜(模型)(新規)
- ・日系人が栽培している胡椒(模型)(新規)
- ・日系人が栽培しているカカオ(模型)(新規)
- ・日系人が栽培しているクブアス(模型)(新規)
- ・日系人が栽培しているカジュ(模型)(新規)
- ・日系人が栽培している楕円スイカ(模型)(新規)
- ・日本から輸入した缶詰(鯛天麩羅)(新規)
- ・日本から輸入した缶詰(カマボコ)(新規)

これらの教材を実際見て、手に取ることで、日本人移民の歴史と経験について何かを感じ取り、学習効果が高まることを期待している。

なお、トピックシート(各教材の説明)に関してはホームページ上からダウンロードできるよう対応されている。



【ブラジルの和菓子】

【定点解説キット】館内利用のみ

日本からの移住者が運んだトランクを再現したもの、当時の移住先国での暮らしを紹介するものなど、10のキットがある。直接体験を通して展示をより実感して理解することが可能となる。本キットは、常設展示案内時に使用している。

- ・サトウキビ畑の生活・仕事(麦わら帽子、手ぬぐい地の帽子、軍手、写真パネル等)
- ・ミックスプレート(写真パネル)
- ・スーツケース(写真カード入小箱、トランク等)
- ・移住物語(写真アルバム、複製パスポート)
- ・花と製品あてゲーム
- ・農作業具(写真パネル)
- ・日系商店(萬屋の品揃えアルバム、エプロン等)
- ・日系人の食卓(写真アルバム)
- ・イグアス(空撮写真、アルバム等)
- ・宝さがし(中高生向写真カード、ゾーンマップ)



【映像教材】貸出可

日本人の海外移住の歴史に関する映像教材。以下7種類は貸出も行っている。

①DVD「子供たちの百年 ブラジルに渡った少年少女は、今！」（制作：2008 年、53 分）

②DVD「アマゾンに挑んだ草創の日本人」（制作：2009 年、85 分）

③DVD「夢と希望を運んだ船 ～移住船での暮らし～」（制作：2009年、5分）

④DVD「100 年の鼓動 ―ハワイに渡った福島太鼓―」（制作：2011 年、57 分）

⑤DVD「誰も知らない日系アメリカ人の歴史」※（制作：2013 年、40 分）

※本映像教材は『二つの祖国で・日系陸軍情報部』などで知られるすずきじゅんいち監督より寄贈を受けた。

⑥DVD「Monica and Friends | 日本とブラジル友情の絆」（制作：2020年、11分）

※本映像教材はMauricio de Sousa Productions Japanより使用許諾を得た。

⑦DVD「Raíces メキシコ東北部の日本人の子孫」（制作：2017年、17分）

※本映像教材はDahil Melgar氏等から使用許諾を得た。

【パスポート】

当館概要、海外移住の歴史、ワークシートなどを一つの冊子にまとめた子ども用教材。生徒・児童はもとより一般来館者へも配布し、展示のねらいに即した見学を支援するとともに、後日、見学した内容を簡単に振り返る事ができるよう工夫されている。2023 年 2 月、リニューアル後の展示用にワークシートを改訂し、日系人の海外移住と SDGs との関係なども記載した新版の運用を開始した。

2) 教育プログラムの実施

教育機関の団体入館児童・生徒、学生を主な対象として、ガイドダンス（概要説明）、パスポートや学習教材を使用したプログラム、ボランティアによる展示解説、質問事項への対応等を実施した。本年度の教育プログラム実施件数は191件、総受講者数は5,073名となった。オンライン実施を含めた四半期毎の実施教育機関は以下のとおり。



【教育プログラム実績】

	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期	年度計
件数	54	59	59	19	191
総受講者数	1,607	1,312	1,561	593	5,073

※件数は実際にプログラムを実施した数。同じ教育機関が複数回受講したケースも有り。

【教育プログラム受講教育機関】

(a) 第1 四半期：

	団体名	団体数	受講人数
小学校	横浜市立平安小学校、東京学芸大学附属世田谷小学校	2	74
中学校	相生市立那波中学校、高岡市立志貴野中学校、仙台市立寺岡中学校、名古屋市立北稜中学校、鈴鹿市立神戸中学校、仙台市立山田中学校、横浜市立潮田中学校、横浜市立南戸塚中学校、土岐市立泉中学校、横浜市立岡野中学校、小牧市立桃陵中学校、志学館中等部、津島市立神守中学校（複数回）、名古屋市立志段味中学校、川崎市立臨港中学校（複数回）、相模原市立旭中学校、横浜市立若葉台中学校	21	821
高等学校	静岡北高等学校、神奈川県立高浜高等学校、磯子工業高校（定時制）、東京工業大学附属科学技術高等学校、神奈川県立二俣川看護福祉高校（複数回）	6	103
大学・専門学校	東京工業大学 環境・社会理工学院、早稲田大学人間環境科学科移住論ゼミ、政策研究大学院大学（GRIPS）、東海大学教養学部万城目ゼミ、神奈川大学国際日本学部歴史民俗学科、大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校浜松校、恵泉女学園大学、昭和女子大学英語コミュニケーション学科池田ゼミ	7	126
その他	2022-4次隊 JICA海外協力隊 課題別派遣前訓練（日系社会講座）、JICA日系社会研修（複数回）、ノース・アメリカン・ポスト／北米報知、希望の会、神奈川県警察学校（複数回）、昭和町社会福祉協議会、よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト	18	483
合計		54	1,607

(b) 第2 四半期：

	団体名	団体数	受講人数
小学校	湘南ホクレア学園、相模原市立大沼小学校、横浜市立つつじが丘小学校、横浜市立善部小学校、横浜市立飯田北いちよう小学校、横浜市立瀬戸ヶ谷小学校、横浜市立能見台小学校	7	376
中学校	大志万学院（ブラジル）、東京女子学院中学校、横浜市立南高等学校附属中学校、森村学園中等部、厚木市立林中学校、神奈川県立みどり支援学校中等部、町田市立忠生中学校、公文国際学園中等部（複数回）	9	185
高等学校	横浜市立横浜商業高等学校国際学科・外国語学科、埼玉県立芸術総合高等学校、横浜創学館高等学校	4	190
大学・専門学校	立教大学社会学部メディア社会学科林ゼミ、筑波大学日・独・韓共同修士プログラム（TEACH）、日本大学法学部、上智大学総合人間科学部看護学科、東洋大学福祉社会デザイン学部社会福祉学科荻野ゼミ、名城大学、横浜デザイン学院、法政大学社会学部中筋直哉ゼミナール、大妻女子大学	9	59
その他	JICA次世代育成研修（中学生）第1陣、JICA次世代育成研修（大学生）、君津市小糸地区民生委員・児童委員協議会、いしづきあきこ先生、JICA横浜教師海外研修（メディア総合研究所）、大岩オスカル氏（ワークショップ参加者）、横浜市緑区連絡自治会長会、JICA日系社会研修、ブラジル日本語センター、横浜山手中華学校アフタースクール、横浜中央ボッチャ同好会、国際スポーツ文化交流（日伯交流サッカー大会U15）、JICA東京多文化共生フィールドワーク、横浜市役所医療局、東京知道会（茨城県立水戸第一高等学校東京同窓会）、国際教室担当者向け研修事業、JICAインターン生（総務課・市民参加協力課）、教員5年経験者社会体験研修、YOKEインターン生（JICA総務課インターン生1名含む）、PENTAS山梨、八王子国際協会国際理解教育委員会、横浜市役所財政局人権啓発指導者研修5グループ、鴨池フォーラム、NPO法人JECK、関西学院同窓会東京支部ウォーキングサークルKG-TWC、相模原市緑地区厚生保護女性会、香川県総務部知事公室国際課、海外協力隊（2023年度2次隊）、ペルー和歌山県人会、神奈川大学元講師ご一行	30	502
合計		59	1,312

(c) 第3 四半期：

	団体名	団体数	受講人数
小学校	横浜市立八景小学校、横浜市立入船小学校、横浜市立小菅ヶ谷小学校、横浜市立一本松小学校、川崎市立宮前小学校	5	383
中学校	横浜国立大学教育学部付属横浜中学校（複数回）、木更津市立畑沢中学校、千葉市立稲浜中学校、さいたま市立美園中学校、藤沢市立長後中学校、横須賀市立武山中学校、公文国際学園中等部	8	205

高等学校	千葉市立稲毛高等学校、岡山県立岡山南高等学校、明蓬館高等学校横浜・関内SNEC、東京都立大泉高等学校、長崎県立佐世保商業高等学校、山形県立鶴岡北高等学校	6	240
大学・専門学校	慶應義塾大学杉原由美研究会、東洋大学国際学部国際地域学科金子ゼミ（比較教育学）、早稲田大学大学院・東京都立大学大学院（合同）、政策研究大学院大学（GRIPS）、共立女子大学、中央大学、神奈川大学国際日本学部国際文化交流学科文化交流コース、神奈川大学法学部国際協力論石井ゼミ	8	139
その他	相模原市大野中地区民生委員・児童委員協議会、メキシコ和歌山県人会、JICA日系社会研修（複数回）、共同通信社編集局社会部記者、世田谷法人会、日系文化センター・博物館（カナダ）、チリの日系人グループ、和歌山県人会（ブラジル）、ほどがや学び隊、架け橋プロジェクト、アメリカの日系人グループ、ペルー日系人協会、館林市民生委員児童委員協議会、退職公務員連盟座間支部、横浜市南区役所、品川インターナショナルスクール、川越商店街連合会、横浜市国際局政策総務課、江戸川北法人会第一ブロック、ぬまづ観光ボランティアガイド、横浜市国際局国際連携課、横浜市役所財政局財政課、JICA地球ひろば「多文化共生の文化」共創プログラム、森茂学術プロジェクト研究会、神奈川県警察学校（複数回）、横浜市役所財政局納税管理課、横浜市役所（人権啓発研修Hグループ）こども青少年局北部児童相談所、横浜市役所財政局財政課、JICA海外協力隊（2023年度第3次隊）	32	594
合計		59	1,561

(d) 第4 四半期：

	団体名	団体数	受講人数
小学校	横浜市立南舞岡小学校、藤沢市立湘南台小学校	2	178
中学校	世田谷区立松沢中学校、大田区立蓮沼中学校、世田谷区立駒沢中学校	3	29
高等学校	熊本県立玉名高等学校、熊本市立必由館高等学校	2	128
大学・専門学校	桜美林大学リベラルアーツ学群、独協大学法学部鈴木淳一ゼミナール、多摩大学グローバルスタディーズ学部	3	32
その他	JICA日系社会研修、JICA次世代育成研修（中学生）第2陣、JICA次世代育成研修（高校生）、焼津市日中友好協会、カケハシ・プロジェクト（アジア系米国青少年招へい（APAICS）プログラム）、神奈川県警察学校、公益財団法人日本太鼓財団、日本財団スカラシップ留学生（新期生）、学研山崎小前教室	9	226
合計		19	593

【プログラム例 大学生向け（1時間）】

- ① 担当職員による資料館概要説明（目的別）
- ② ガイド付き資料館見学

【プログラム例 高校生向け（1時間）】

- ① フォトランゲージを活用したワークショップ
- ② 担当職員による資料館概要説明
- ② パスポートを活用した資料館見学

【プログラム例 中学生向け（1時間）】

- ① 担当職員による資料館概観説明
- ② パスポートを活用した資料館見学

【プログラム例 小学生向け（1時間）】

- ① 学習教材のカルタを使用した体験学習
宝探しワークシートを活用した資料館見学

3 教育プログラム関連業務

(a) インターン受入

以下、計6名のインターン生の受け入れを行った。

- ・ JICA インターンシップ・プログラム 2名
- ・ 大正大学社会共生学部公共政策学科 2名
- ・ JICA SDGs グローバルリーダーコース 1名
- ・ JICA 社内インターン 1名

インターン生は、来館者へのインタビューや教育プログラムの補助などを通して、来館者受け入れにおける改善の提案や教育プログラムの企画、広報記事の作成等を行った。

(b) 「おうちミュージアム」ページ

これまでのインターン生発案の各種企画をはじめとした子ども向けの教育コンテンツをまとめ、「おうちミュージアム」として当館 web ページに掲載している。

【Monica and Friends I 日本とブラジル友情の絆】

ブラジルの国民的アニメ、「モニカ&フレンズ」でブラジルへの日本人海外移住の歴史と、日本とブラジル両国の協力関係について解説している。日本語版に加えてポルトガル語版もあり、2言語での学習が可能である。



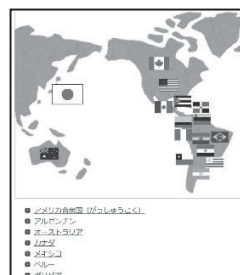
【おうちでパスポートを発券してみよう!!】

幕末から明治時代と明治時代から大正にかけてのパスポートを画像データにて再現し、自宅にしながら当時のパスポートの変遷を学ぶことができる。また、再現したパスポートで「渡航者は誰だ? ゲーム」も用意し、遊びを取り入れた学習機会も提供している。



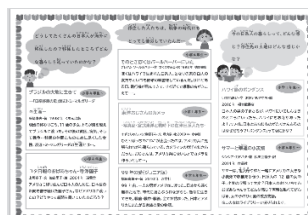
【ぬりえで日本人が移住した国を学んでみよう】

日本人が移住した15カ国の国旗のぬりえをダウンロードし、ぬりえを通して日本人が移住した国を学ぶことができる。また、ダウンロードサイトには各国の面積や人口、日本人移住開始年などの基礎情報も掲載している。



【移住をテーマにした本を読んでみよう】

北・中南米へ移住した日本人の歴史や、日系人の暮らしがわかる絵本や小説を紹介している。対象年齢別に小学生以上と中学生以上があり、年齢に適した書籍を知ることができる。ここに掲載されている本はすべてJICA横浜 海外移住資料館の閲覧室に所蔵されている。



【日本人移民関連モニュメントマップ】

多くの移民を送り出してきた横浜には、日本人海外移民のための船が出発した港や宿泊施設があり、さらには移住地との友好関係を象徴するモニュメントが建てられている。これらの日本人移民関連モニュメントを記した地図を用いることによって、日本人移民の足取りをたどることができる。

2023年度は中学生以上向けマップ「日本人の海外移住と横浜開港の歴史MAP」を追加した。



4) ボランティア管理運営

(a) ボランティア活動

常設展示室、企画展示室内での展示案内を中心に活動している。2023年度末時点で、登録者数は17名。
なお、展示案内ボランティアの配置状況は以下のとおりとなっている。

- ・第1 四半期：59人配置 ※4月1日～5月23日の平日休館
- ・第2 四半期：82人配置
- ・第3 四半期：48人配置 ※11月13日～2月29日まで休館
- ・第4 四半期：24人配置

(b) ボランティア連絡会議の実施

ボランティア連絡会議を開催し、情報の共有および今後の活動についての意見交換を行った。2023年度は以下のとおり実施した。

ボランティア連絡会議

- | | | |
|------|------------|---------|
| ・第1回 | 4月26日（水）開催 | 参加者：11名 |
| ・第2回 | 9月1日（金）開催 | 参加者：8名 |
| ・第3回 | 2月27日（火）開催 | 参加者：5名 |

なお、第3回ボランティア連絡会議ではあわせて「合理的な配慮の必要な来館者に対する対応について学ぶ」をテーマとした研修会を実施した。

(3) 広報活動

1) 広報紙「海外移住資料館だより」発行

当館広報紙として「海外移住資料館だより」を、2023年度は2回発行。企画展示の内容などをテーマに、展示内容および資料館の活動などを紹介した。発行部数3,000部。

主な配布先は、都道府県国際交流課および国際課、指定都市国際交流課および国際課、教育委員会や各国大使館、図書館、博物館、神奈川県立高校、横浜および川崎市内小中学校、国際教育研究協議会加盟校、外国人集住都市の市区町村および国際交流協会など、約400件。その他、常設展示場、閲覧室等で随時配布している。また、当館ホームページでもバックナンバーを含め閲覧可能である。

No.	発行	コンテンツ
60	2023年 9月	特集 紀州魂ここにあり！世界で活躍する和歌山移民
61	2024年 2月	特集 どうしてJICAに移民の資料館が？



No.60



No.61

2) 一般広報

JICA 横浜が行う広報事業等と連携しつつ、当館の入館者数増を目指し、地域で行われるイベント等への参加、広報媒体への掲載など、以下のとおり実施した。

横浜みなとみらい21 (Minatomirai 21) / ヨコハマ・アートナビ / 日本博物館協会 / みなとみらい21「アート&ミュージアムめぐりMAP」 / 地域博物館連携事業「ミュージアム・ミッション」 / J:COM (WEEKLYトピックス、LIVEニュース横浜) / 東京散策乗物ガイド / みなとみらいLOVE Walker / 神奈川新聞 (イマカナ他) / ValuePress! / 横浜観光コンベンション・ビューロー / カナロコ / Mapion / 財経新聞 / ブラジル日報 / 紀友会 / NGOネットワーク ジャパン / magcul.net / みなとみらいPRセンター / INTJ (国際繋生語ネットワーク) / Googleニュース / Megabrasil / 立教大学ラテンアメリカ研究所便り / 埼玉県国際交流協会 / しまね国際センター / 海外日系人協会 / 横浜市公式観光サイト (横浜観光情報「横浜親子連れスポット」) / かながわ国際交流財団 / PNLSC JAPAN / 日本国際政治学会 / CÂMARA DE COMÉRCIO BRASILEIRA NO JAPÃO (CCBJ / 在日ブラジル商工会議所) / Art yokohama / 登竜門 / 公募ガイド / 名古屋大学 / 獎金獵人 / 日本ラテンアメリカ学会 / 栃木県国際交流協会 / Cultural News / 作家のお手伝い! / オール・トゥギャザー・フェスティバル / 歩く地図 鎌倉・横浜散歩 / 横浜市クルーズ・フレンドリー・プログラム / リビング新聞 (街これ)

3) 開催広報

JICA 横浜が行う広報事業等と連携しつつ、当館常設展示および企画展示、公開講座、その他イベントに関する広報活動を積極的に行うため、広報素材作成と頒布、表示類の作成、プレスリリースの配信等、適宜開催広報を行った（朝日新聞／神奈川新聞／産経新聞／東京新聞／毎日新聞／読売新聞／ヨコハマ経済新聞／共同通信社／時事通信社／ブラジル日報／NHK／TVK／日本テレビ／日本博物館協会HP、等）。また近隣博物館、商業施設、宿泊施設等へ、広報物の掲出・設置等依頼した。

4) 海外移住資料館「友の会」

海外移住資料館「友の会」は、「日本の海外移住の歴史」や「日系人」、「多文化共生」などのテーマに興味・関心のある方々へ関連情報を発信するとともに、当資料館利用者数の増加を図ることを目的に設立された。

活動内容は当館で実施する事業やイベントの案内、海外移住の歴史や日系人、多文化理解といったキーワードに関連する情報の発信等となっている。

情報発信のツールとして、メールマガジンを利用し、2023 年度は計 12 回配信し日秘外交樹立 150 周年であった 2023 年は「日本・ペルー国交 150 周年シリーズコラム」を掲載した。コラムの内容は以下のとおり。

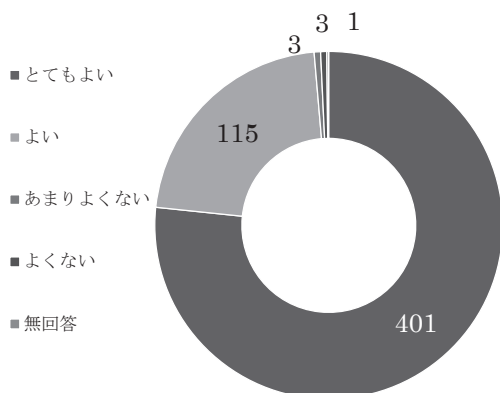
- 4 月 マリア・ルス号事件とアウレリオ・ガルシア・イ・ガルシア特命全権大使
- 5 月 佐倉丸とアウグスト・B・レギア大統領
- 6 月 契約移民（1899-1923）と野口英世
- 7 月 ペルー独立 100 周年記念日と初代インカ帝王マンコ・カパック
- 8 月 戦中の邦人社会と永住する決心
- 9 月 戦後の邦人社会と希望の太平洋クラブ
- 10 月 邦字新聞とペルー新報の貢献
- 11 月 ペルー日系社会最大のイベント「AELU 祭り」
- 12 月 日系ペルー料理の先駆者佐藤ウンベルト
- 1 月 ペルー日系人歌手の道
- 2 月 新 200 ソーレス紙幣の顔、ティルサ・ツチャ
- 3 月 移住 125 周年を迎えるペルーの日系社会

会員登録には、メールマガジンの配信登録を利用し、2023 年度末時点で、友の会会員は 1,798 名となった。

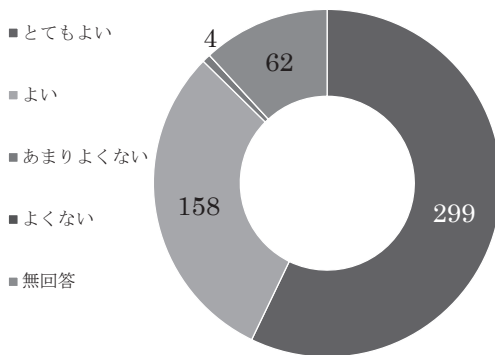
(4) アンケート調査

当館の常設展示入館者を対象に利用者アンケートを実施。設問は「展示内容について」「展示ガイドによる展示解説について」「受付での対応について」等を設定した。回答総数は 279 件。4 段階で評価いただいたが、すべての設問において、無回答を除いた有効回答の 9 割以上が「とても良い」「良い」を選択しており、良好な回答を得た。

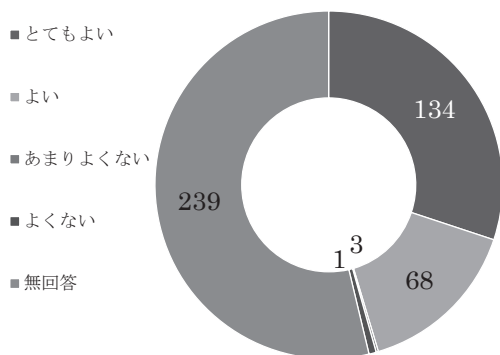
展示の内容



受付の対応



展示ガイド



2. 資料収集・整備

(1) 資料等情報整備

1) 資料の受入・収集

日本人の海外移住および日系社会に関連する図書類、新聞、標本類など各種資料を、寄贈、購入、取得等の方法で収集した。

2023 年度受入件数は 849 件。(図書類 363 件、新聞 301 件、標本類 185 件)

主な資料は、現地で戦後に創刊された邦字新聞の原紙、現地日系団体の機関紙およびパンフレット類、日本人移民およびその子孫と日本の親族との間で交わされた書簡、現地の生活や風景を撮影した写真、各国で日系人が販売している日本食関連商品の容器、海外の日系人が執筆した現地日系社会に関する論文のデジタルデータ等である。

2023 年度受入件数

	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期	年度計
取得	146	131	80	111	468
購入	0	10	4	2	16
寄贈	61	185	90	29	365
移管	0	0	0	0	0
寄託	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0
合計	207	326	174	142	849

2) 資料の整理

(a) 資料の整理・登録作業

2023年度に受入した資料および前年度までに受入をし、未整理となっていた資料について、整理、登録を行った。

作業件数：1057件（図書類409件、新聞301件、標本類347件）

2023 年度登録件数

	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期	年度計
取得	152	118	130	108	508
購入	9	25	6	5	45
寄贈	149	75	102	127	453
移管	0	0	0	0	0
寄託	0	0	0	0	0
その他	1	4	45	1	51
合計	311	222	283	241	1057

(b) 伊藤一男関連資料の整理作業

伊藤一男氏（元読売新聞記者、シカゴ新報東京支局長、北米報知東京支社長、『北米百年桜』著者）のご遺族より寄贈を受けた資料について、公開用目録作成、図書抜出などの整理作業を実施した。

寄贈資料は、主に北米日本人移住者に関するものであり、図書、新聞、写真、書簡等、多岐にわたる。

・公開用目録作成作業

歴史資料等保有施設として義務付けられている一般の閲覧に供することを目的とした目録（公開用目録）作成作業を、前年度に引き続き、実施した。

具体的な作業としては、これまで実施してきた予備整理作業において作成した概要入力一覧の情報をもとに一資料に一番号を付し、それぞれに資料名、日付、形態、サイズ、数量、状態などを詳細に記録した。それにより、目録の上で、閲覧者が資料を確認できるようになり、不要な出納を避けることができる。次年度も、資料の特性にあわせて、記入項目を適宜、追加修正しつつ、引き続き、作業を実施する予定。

※「公文書等の管理に関する法律施行令」第六条第二項

当該資料の目録が作成され、かつ、当該目録が一般の閲覧に供されていること。

作業件数 475 件（資料群の数）、4,671 点（資料点数）

・図書抜出作業

受入時のまとまりを尊重し、整理作業を進めてきた伊藤一男資料は、文書や写真等と図書類、新聞類が混在して、ひとつの資料群をなしているものがほとんどであるが、今後の目録公開、閲覧提供を見据えて、図書類として活用できるものについては、資料の原秩序を尊重（記録）しつつ抜出を行い、一覧を作成する作業を実施した。

作業件数：249件

(c) 図書資料等の目録更新作業

既に登録されている図書資料等を対象とした書誌情報の修正、不足情報の追加、複本確認等の作業を実施した。

作業件数：1,712件

(d) その他

上記整理作業実施に伴う格納場所確保のため、収蔵庫各所において、資料の棚移動作業を実施した。また、既に格納済みの一部資料について、保管方法および保管場所の見直し、資料の整理作業を実施した。

3) 収蔵環境の整備

(a) 特別清掃

常設展示場、一般収蔵庫、写真特殊収蔵庫、情報処理室について、専門業者へ依頼をして、特別清掃作業を実施した。

また、収蔵庫収蔵資料および展示資料の一部について、専門業者へ依頼して、除塵除黴作業を実施した。

(b) 収蔵庫等の環境調査

収蔵品を保管している一般収蔵庫、写真特殊収蔵庫、閲覧室書庫において、各種資料に適切な保存環境について確認、検討することを目的に、目視確認、温湿度測定を実施した。

(2) 情報システム

1) 情報検索システム

(a) 情報検索システム運用

閲覧室で実施される各種レファレンスサービスと連携して、当館の収蔵資料について情報を整備し、情報検索システムを通じて館内、館外へ検索サービスを提供した。2023 年度末時点登録数：27,062 件（うち図書類：24,631 件、標本類：2,431 件）。

URL: <https://jommdms.jica.go.jp/k-search/>

(b) 登録データの整備

既に登録されている書誌情報の修正、不足情報の追加等を行った。また、図書の複本処理を行い、データを統合させた。登録情報の照合・確認・修正件数は1,712件。

2) 海外移住資料館 web ページコンテンツ

(a) 移住資料デジタルネットワーク化プロジェクトサイトの維持・管理

当館では、日本国内および世界各国の日本人の海外移住をテーマにした博物館・資料館等と連携し、当館がそれらのハブ機能としての役割を持つプロジェクトをすすめている。また、このプロジェクトでは、当館の情報システムを活用し、写真・資料のデジタル・アーカイブおよびインターネット上の資料展示や横断的な資料検索等を実現することで相互の移住資料が有効活用されるネットワークをめざしている。

現在公開中のプロジェクトサイトは以下のとおり。

- ・ 広島市デジタル移民博物館
URL: <https://jommdms.jica.go.jp/fmp/dmshiroshima/map/>
- ・ オキナワボリビア歴史資料館
URL: <https://jommdms.jica.go.jp/fmp/okinawabolivia/map/>
- ・ アルゼンチン日本人移民史
URL: <https://jommdms.jica.go.jp/fmp/fana/map/>
- ・ ペルー日系人協会 移住資料デジタルネットワーク化プロジェクトサイト
URL（デジタル展示日本語）: https://jommdms.jica.go.jp/fmp/apjmuseo/map_jp/
URL（デジタル展示スペイン語）: https://jommdms.jica.go.jp/fmp/apjmuseo/map_es/
URL（デジタル展示英語）: https://jommdms.jica.go.jp/fmp/apjmuseo/map_en/
URL（移民データベース日本語）: <https://jommdms.jica.go.jp/jp/>
URL（移民データベーススペイン語）: <https://jommdms.jica.go.jp/es/>
- ・ 中南米移住地記録写真集 1964
URL: <https://jommdms.jica.go.jp/fmp/1964top/index.html>



3. 研究活動

(1) 学術研究プロジェクト

学術委員会において企画・検討された以下の4プロジェクトについて、今年度の活動を行った。
学術研究プロジェクトの研究概要は以下のとおり。

1) 日系カナダ人の経験を通してみる戦後の日加関係

【概要】2020年度まで継続して調査・研究してきたテーマ——第二次世界大戦後に日本に「送還」された日系カナダ人の日加文化交流・日加友好関係増進への貢献——を、さらに進め、文化面・学術面から戦後の日加関係を考察する。

【プロジェクトリーダー】飯野正子（津田塾大学理事・名誉教授）

2) 個人記録と移民史記述に関する多角的検討

【概要】個々の移民にかかわる日記・記録・書簡・創作といった一次史料としての個人記録の収集・整理・分析作業を中心に据えつつ、個人記録を公文書等の他の一次史料群や二次的な刊行物と接合させることにより、移民史記述へと昇華させてゆく方法について、これまでの研究蓄積を総合的に確認し、多角的に分析する。この作業を通じて、一次史料としての個人記録収集・整理・利用の精緻化と、移民史記述に有機的に組み込んでゆく方法の構築とを試みる。

【プロジェクトリーダー】柳田利夫（慶應義塾大学名誉教授）

3) 海外への移動・移送と「絆」の視点からみるグローバルヒストリー

【概要】本プロジェクトの目的は、前プロジェクト「海外交流・渡航・移住の視点からみるグローバルヒストリー」の問題意識や視座を継承しつつ、日本から海外（北米、ハワイ、オーストラリア）への、あるいは海外から日本への移動・移送が生み出す「絆」、そしてその「絆」に影響を受けてさらなる移動・移送へと続く現象を、グローバルヒストリーに位置づけることである。とくに、近年の研究によって解明されつつある移動の重層性や連続性に焦点を当て、「絆」の多重的な部分を明らかにする計画である。また、移動に多大な影響を与える法的な制度についても積極的に議論に含めていくつもりである。本プロジェクトが完了する2024年は、アメリカの1924年移民法（いわゆる「排日移民法」）の成立から100年目の年であり、移民にかかわる法的措置とその影響にあらためて注目することは意義深いと考えている。

従来の研究では、日米和親条約（嘉永7年3月3日・1854年3月31日）以前の海外交流や渡航を偶発的・単発的なものとみなし、ハワイに「官約移民」が渡航した1885年を「日本人移民元年」と位置づけ、「移民」を狭義にとらえるナショナルヒストリーの枠内で移動・移送を考察する傾向があった。そこで、本プロジェクトでは、19世紀半ばから20世紀半ばまでの人、もの、情報やリソースの移動とその連鎖について、移民法などの制度面と、個人の言動（人々の主体性）の両者に光を当て、とくに移動する人を支える「絆」について、さらなる検証を進めたい。

【プロジェクトリーダー】小澤智子（武蔵野美術大学教授）

4) 海外移住資料館のリニューアル展示を活用した『学習活動の手引き』の改訂

【概要】当館は、開館当初より日本の若い世代に海外移住の足跡や役割について理解を深めてもらうことを目的に、同館の展示や資料を活用した指導者向けの『学習活動の手引き』の作成を行ってきた。初版は2005年に作成され、2007年には展示のほか、開発した移民学習教材（カルタ、紙芝居等）の活用も含め、それらを活用した『学習活動の手引き』の改訂を行った。2022年、

資料館展示が、20 年ぶりにリニューアルされたことをきっかけに、『学習活動の手引き』の再改訂が求められている。

そこで、本プロジェクトでは、リニューアルされた展示、およびこれまで開発されたカルタ、紙芝居、双六などの学習教材を活用した『学習活動の手引き』の再改訂を行う。研究期間は 2022～2023 年度の 2 年間とし、並行してリニューアル展示を活用したデジタル教材開発の可能性についても検討する。

【プロジェクトリーダー】森茂岳雄（中央大学名誉教授）

(2) 研究紀要の発行

当館で行われた学術研究の成果として、『研究紀要 第 18 号』を発行した（2024 年 3 月発行）。論文題目等は以下のとおり。

【論文】

- ・環太平洋の移動とマイノリティをめぐる史料—漂流者の見た／聞いたアメリカ
東京学芸大学・教授 菅（七戸）美弥
- ・沖縄系としての生活史と「定住」の模索
—横浜市鶴見区の在日南米系移民の事例から—
関東学院大学・講師 藤浪 海
- ・ウチナンチュとしての在日ペルー人の「ネットワーク」と「継承」
～世界のウチナンチュ大会への参加動機から～
宇都宮大学・研究員 小波津 ホセ

【資料紹介】

- ・戦後日本人カナダ移住に関する基礎史料（続）
—カナダ図書館・公文書館、外務省外交史料館所蔵史料—
津田塾大学・名誉教授 飯野 正子
東洋学園大学・元教授 高村 宏子
外務省外交史料館・元副館長 原口 邦紘
東京外国語大学・兼任講師 木野 淳子
- ・「ブラジル東山農場」所蔵史料の紹介
慶應義塾大学・名誉教授 柳田 利夫
- ・松宮家所蔵南米移民関係資料（その 2）
JICA 緒方貞子平和開発研究所・研究員 ガラシーノ・ファクンド
国際日本文化研究センター・特定研究員 根川 幸男
- ・海外移住資料館に収蔵されている JICA 海外移住事業関係資料とデジタル化作業
（公財）海外日系人協会・学芸員 渡邊 由紀子

2006 年より刊行している『研究紀要』について、PDF 版を製作し、当館 Web ページにて公開している。

URL: <https://www.jica.go.jp/domestic/jomm/publications/kiyo.html>

(3) JICA 海外移住「論文」及び「エッセイ・評論」募集事業

日本国内における外国人とのよりよい共生が課題となるなか、日本人の海外移住の150年以上の歴史に対する理解と関心を高めることを目的として国際協力機構（JICA）は2019年に「JICA 海外移住論文」を創設した。

第二回の募集より、海外移住の歴史に対してより関心のすそ野を拡げることを目指し、論文部門のほかに「エッセイ・評論部門」を加え、テーマを第一回の「邦字新聞」から「日本人の中南米への移住」とした。

第四回は引き続き、募集部門を「論文部門」「エッセイ・評論部門」の二部門で、テーマを「日本人の北米・中南米への移住」として募集を行い、さらに佳作を設け、以下の作品が受賞した。

※肩書は受賞時のもの

1) 論文部門

【最優秀賞・優秀賞】該当なし

2) エッセイ・評論部門

【最優秀賞】

タイトル：あたたかな生活

氏名：中野咲希さん 北九州市立大学（学生）

賞金：20万円

【優秀賞】

タイトル：定住型日系ブラジル人と日本の地域社会

－豊田市での多文化共生交流を通して－

氏名：小林かおりさん 椋山女学園大学

賞金：5万円

タイトル：ヤマヨモギ繁る荒野 クロスオーバーする記憶

氏名：鈴木修治さん 生活協同組合コープぎふ

賞金：5万円

【佳作】

タイトル：日本の移民者

氏名：浅海莊吾さん 株式会社クラウンムービングサービス

第五回論文募集においては、テーマとして北米も含め、「日本人の北・中南米への移住」に関するさまざまな研究結果およびエッセイ・評論を募り優秀な作品を発表することによって、日本人の海外移住の歴史に対する理解と関心を高め、移民研究のすそ野を広げることや多文化共生など今日的な社会課題への気付きを得ることをねらいとして実施する。2023年12月に募集を開始し、応募締め切りは2024年6月30日までとなっている。

4. 運営委員会・学術委員会

(1) 運営委員会

当館の運営方針、事業計画、学術事項等運営に関する重要事項について専門的な見地から議論・検討することを目的とし、運営委員会を設置している。同委員会は学識経験者および JICA 総務部長、中南米部長、国内事業部長、館長等により構成される。2024 年 3 月 14 日に、学識経験者として飯野正子学術委員長の出席を得て実施した。

(2) 学術委員会

当館における学術研究に係る企画・実施協議・評価・交流を行うことを目的として、2006 年度に海外移住資料館学術委員会を設置した。同委員会は、学識経験者、海外移住資料館長（JICA 横浜所長）により構成される。

【2023 年度 学術委員会開催】

- ・第 1 回 学術委員会（5 月 30 日）
- ・第 2 回 学術委員会（12 月 8 日）
- ・第 3 回 学術委員会（3 月 5 日）

【2023 年度 学術委員】

委員長	飯野正子	津田塾大学理事・名誉教授
委員	中牧弘允	吹田市立博物館特別館長、国立民族学博物館名誉教授
	森茂岳雄	中央大学名誉教授
	柳田利夫	慶應義塾大学名誉教授
	原山浩介	日本大学教授
	中根 卓	JICA 横浜所長（海外移住資料館長）（～2023 年 8 月）
	大野裕枝	JICA 横浜所長（海外移住資料館長）（2023 年 9 月～）

2024 年 3 月森茂岳雄学術委員 ご逝去

5. 各種実績等

(1) 来館者受け入れ

1) 皇室

11月のペルーご訪問にあたり、秋篠宮佳子内親王殿下が9月4日にご来館。柳田利夫学術委員によるご進講の後、中牧弘允学術委員のご案内のもと、当館のご視察をされた。

2) 国会議員・閣僚等

穂坂泰外務大臣政務官、横浜市会議員横山正人議員、坂本勝司議員、深作ゆい議員、愛知県議会おぎそ史人議員、藤原聖議員、神奈川県議会議員すとう天信議員が当館をご視察された。

3) 在京大使館・領事館

米国大使館総領事および領事部一行、米国大使館 USAID 担当参事官、在京ヨルダン大使、在京ペルー大使、在京ブラジル大使、在京アルゼンチン共和国大使、在京ブラジル総領事、パラグアイ外務大臣夫人が当館をご視察された。

4) 国内自治体等

横浜市役所医療局、横浜市役所財政局、広島県雇用労働政策課、和歌山企画部国際担当、沖縄県文化観光スポーツ部、横浜市南区役所、文科省国際教育課、横浜市国際局政策総務課、横浜市国際局国際連携課、横浜市役所財政局財政課、和歌山県国際協会、沖縄県金武町教育委員会、外務省領事局政策課、神奈川県教育委員会教育委員が当館をご視察された。

5) 海外・国内関係機関・団体等

ハワイ・プランテーション・ビレッジ、ノース・カロライナ大学、ペルー日系人協会、ブラジル日本語センター主催ふれあい日本の旅、メキシコ福岡県人会、ペルー和歌山県人会、メキシコ和歌山県人会、全米日系人博物館、日系文化センター・博物館（カナダ）、ブラジル和歌山県人会、ブラジル日本文化福祉協会、日本人ペルー移住史料館”平岡千代照”、マウリシオ・デ・ソウザ・プロダクションズ、松柏学園、大志万学院、カナダミュージアム（和歌山県美浜町）、「Broken Promises 破られた約束」日本巡回展示実行委員会、日系文化会館、緒方貞子平和開発研究所強制移住研究プロジェクト、サンパウロ人文科学研究所、海外移住と文化の交流センター 移住ミュージアムが当館をご視察された。

今後、外部からの視察等については、海外移住資料館の啓発・発信の機会と捉え、積極的に対応したい。

(2) 他館・他機関への訪問

1) 国内

和歌山市民図書館、和歌山県立近代美術館、海外移住と文化の交流センター 移住ミュージアム、カナダミュージアム（和歌山県美浜町）、滋賀県平和祈念館

2) 海外

11月19～30日にかけて JICA 横浜大野所長、大塚職員、照井職員がブラジル、ペルー、米国に海外出張を行った。主な訪問先は以下のとおり。

ブラジル日本文化福祉協会、サンパウロ日伯援護協会、サンパウロ人文科学研究所、大志万学院、パラナ日伯文化連合会、ロンドリーナ州立大学日本文化研究室、ブラジル日本都道府県人会連合会、ブラジル日本移民史料館、アサイ日本移民資料館、ロンドリーナ市営移民資料館、ローランジア日本移民資料館、サンパウロ州移民史料館、ペルー沖縄県人会、ペルー日系人協会、ラ・ウニオン校、日本人ペルー移住史料館“平岡千代照”、全米日系人博物館、Go For Broke National Education Center

(3) その他

1) 海外移住資料館来館者数 70 万人達成

2023 年 9 月 14 日に、来館者数 70 万人を達成した。同日、記念式典を行い、70 万人目のご来館者となった法政大学社会学部中筋直哉ゼミナールの皆様に大野裕枝館長より感謝状と記念品を贈呈した。

2) 海外移住資料館 20 周年記念誌刊行

海外移住資料館創立 20 周年を記念し、20 周年記念誌を刊行した。2013 年から 2022 年までに行われた企画展示やイベント、また 2022 年に完了した資料館のリニューアル等、10 年間の変遷をまとめ、各関係先へ配布した。

3) 展示および資料整理に関する作業部会（ワーキング・グループ）発足

海外移住資料館の所蔵資料の調査研究および企画展示を中心とした展示方法・内容・計画について、中・長期的な視野を持ちながら検討し、最終的には資料館としてのビジョンを整理し、将来的な常設展示の改善と拡充を図ること、また、望ましい資料整理の方法を確立し資料整理の加速化を図ることを目的とし、以下メンバーにて発足した。

【メンバー】

原山浩介学術委員

JICA 横浜 海外移住資料館担当者

海外日系人協会 研究・学芸部門担当者

(4) 他館への資料貸出

当館所蔵資料の貸出実績は以下のとおり。

日付	貸出先	貸出内容	利用目的
4/1	昭和館	画像 68 点	常設展示利用
4/1	日伯協会	図書 4 点、標本 38 点	常設展示利用
4/1	神戸海洋博物館	画像 1 点	常設展示利用
6/6	北海道テレビ放送	画像 2 点	
6/16	JCOM	画像 1 点	
6/17	徳島ブラジル友好協会	パネル 10 点	
6/17	読売新聞川崎支部	画像 11 点	
6/20	和歌山県広報課	画像 1 点	
6/27	和歌山県広報課	画像 1 点	
6/29	スタジオブルー	画像 72 点	
6/30	スタジオブルー	画像 2 点、映像 3 点	
7/20	JICA 北見デスク	パネル 15 点	
9/12	JICA 中南米部	画像 10 点	
9/13	NHK 名古屋	画像 6 点	
10/10	アンデス音楽祭実行委員会	画像 2 点	
10/14	パラグアイフェスティバル	パネル 10 点	
11/22	小豆島町立苗羽小学校	画像 1 点	
12/7	BEGIN	画像 1 点	
12/15	千里文化財団	画像 1 点	
12/25	山川出版社	画像 4 点	
12/25	エー・ティー・エー	画像 5 点	
1/5	JICA 横浜	画像 4 点	
2/9	テレビマンユニオン	画像 1 点	
2/22	ワンダーウェルネス	画像 1 点	
3/4	海外日系人協会	画像 1 点	
3/7	JICA 東京	パネル 10 点	
3/8	福岡県国際交流センター	パネル 2 点	
3/26	JICA ドミニカ共和国事務所	画像 10 点	

(5) 各種実績データ

2023年度業務実績一覧

2023.4～2024.3

常設展示スペース	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
入館者数	1,823	3,330	3,702	3,277	3,921	3,349	3,229	2,283	377	247	147	2,787	28,472
(前年度比)	219%	70%	126%	109%	107%	119%	90%	68%	9%	7%	4%	92%	72%
一般	1691	2626	2723	2,841	3,825	2,759	2,837	1,616	86	146	37	2,577	23,764
学校関係	132	704	979	436	96	590	392	667	291	101	110	210	4,708
15歳未満	220	792	902	399	757	731	302	488	147	78	12	496	5,324
15歳以上	1603	2538	2800	2,878	3,164	2,618	2,927	1,795	230	169	135	2,291	23,148
個人	1620	2508	2404	2,579	3,632	2,519	2,443	1,339	0	2	0	2,410	21,456
団体	203	822	1298	698	289	830	786	944	377	245	147	377	7,016
オンライン利用者数	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	6

※開館からの累計：711,611名

教育プログラム実施	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
対応件数	7	18	29	23	13	23	24	26	9	7	3	9	191
実施対象人数	115	622	870	497	177	638	441	809	311	201	110	282	5,073
インターン受入人数(のべ)	0	0	0	0	1	2	2	0	0	0	1	0	6

照会対応	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
対応件数	23	27	29	21	23	21	18	8	7	2	3	6	188
JICA	1	1	0	0	0	0	2	1	1	0	0	1	7
教育機関	0	3	5	0	0	1	0	0	0	0	1	1	11
国内団体	4	1	2	0	2	0	0	0	1	0	0	1	11
個人	17	21	16	20	19	16	14	4	3	1	0	3	134
自治体	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1	0	4
制作会社・マスコミ	1	0	6	1	1	3	1	2	1	1	1	0	18
国外団体	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	3

閲覧室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
入室者数	140	163	228	209	201	158	204	97	0	0	0	0	1,400
(前年同比)	117%	128%	151%	115%	102%	90%	97%	43%	0%	0%	0%	0%	67%
一般	72	52	73	89	64	60	82	40	0	0	0	0	532
マスコミ等	1	3	14	9	10	9	10	6	0	0	0	0	62
JICA関係(業務)	53	76	83	95	122	81	60	28	0	0	0	0	598
JICA関係(研修)	14	32	58	16	5	8	53	23	0	0	0	0	209

資料受入件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
資料受入件数	65	77	65	81	52	193	47	62	65	13	10	119	849
(うち取得)	51	49	46	22	39	70	12	49	19	5	3	103	468
(うち購入)	0	0	0	0	0	10	2	2	0	0	0	2	16
(うち寄贈)	14	28	19	59	13	113	33	11	46	8	7	14	365
(うち移管)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(うち寄託)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(うちその他)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

webページアクセス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
Visits(訪問者数)	23,850	16,012	3,473	3,391	4,068	3,581	5,171	4,147	3,362	3,527	3,381	3,731	77,694
PV(ページビュー数)	38,943	43,340	15,463	11,089	14,070	13,305	13,597	12,258	8,295	11,050	10,643	11,798	203,851

情報検索アクセス数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
PV(ページビュー数)	1,333	2,144	2,764	1,359	3,274	2,330	2,373	1,985	1,181	1,052	337	290	20,422
(前年同比)	57%	108%	117%	54%	127%	106%	100%	72%	48%	44%	14%	12%	72%

*検索件数	43,786	45,857	47,978	49,586	49,551	45,626	47,582	51,731	44,249	46,670	44,970	45,300	562,886
-------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	---------

*解析方法を変更したため、今年度の件数のみを記載

※JICA横浜センター大規模改修工事のため、常設展示場は2023年4月1日～5月23日平日休館、11月13日～2月29日休館、閲覧室は2023年11月13日～閉室(2024年8月開室予定)

JICA 横浜 海外移住資料館 館報
2023 年度

**発 行：独立行政法人国際協力機構横浜センター
海外移住資料館**

発行年月：2024 年 6 月

問い合わせ先

JICA 横浜 海外移住資料館

〒231-0001 神奈川県横浜市中区新港 2-3-1

Tel 045-663-3257 / Fax 045-211-1781

Web : <https://www.jica.go.jp/domestic/jomm/index.html>

E-mail : jicayic_jomm_info@jica.go.jp

